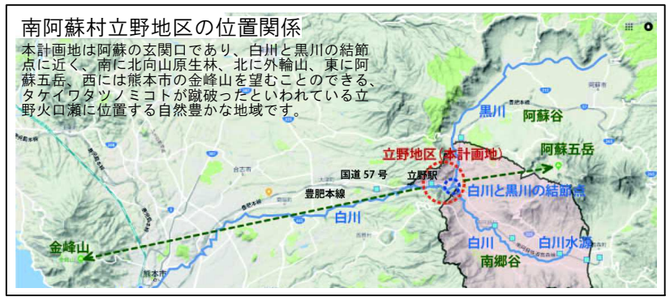
安心して・楽しく・豊かに暮らせるむらへ
世界一のカルデラの村　南阿蘇の「南阿蘇型」災害公営住宅の提案

■基本方針
南阿蘇村復興むらづくり計画における、「村の自然の恵みに感謝し、先人からの営みを継承しながら、現代の潮流にあったむらの仕組みを整え、住民協働によるむらづくりを進める」という基本理念を念頭に、村民のなりわいを再生するために、単なる復旧にとどまらず、「創造的復興」を成し遂げる第一歩として、この災害公営住宅をつくります。

■「あんしん」
・エリア毎に駐車場を設け、歩車分離としながらも緊急時には全住戸に対して車両を寄せられる配置計画としています
・プライバシーを考慮し、適度にお互いの気配を感じ取れる距離感を保った配置、平面計画とすることで、自然に見守りあう環境をつくります
・次世代基準の住宅性能を達成し、被災した入居者にかかるランニングコストを低減します
・外部には太陽光発電式LED灯を設置し、地域をあたたかく照らす防犯灯として安心な暮らしを確保します
・どなたが入居しても使いやすい、ユニバーサルデザインを取り入れた住まいとします

■「あたたかさ」
・熊本色彩ガイドラインに基づいた色彩計画とし、周辺環境と調和した落ち着きのある色や自然素材を用います
・県産材をふんだんに使った、温かみのある落ち着いた住まいとします
・軒を出し、夏の日射を防ぎ、冬の日射を取り入れた、省エネルギーの住まいとします
・阿蘇山の火口原から吹き出す局地風である「まつぼり風」は立野付近でもっとも強風になり、冷気も強いので、住戸間に通り土間を設け、土間側に玄関を配することで強風をしのぎやすくしています
・住棟間に小路や広場をつくり、玄関までゆるやかにアプローチ可能なバリアフリーの住まいとします

■「ふれあい」
・住戸間の通り土間、濡れ縁、ベンチを随所に設け、入居者同士の交流を自然に促します
・共有菜園を設け、家庭菜園を通じた「おもいあい」文化の交流を図ります
・これまでの集落のイメージを残す配置計画にすることで、被災者の原風景に近いものとします
・敷地南側にある桜を残し、「桜のみち・こみち」をつくり、桜の時期には入居者みんなで花見ができるようにします



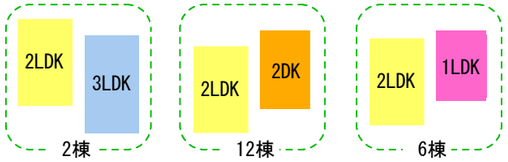
■外灯
防犯対策としてソーラーLED外灯を設置し、災害時の警報機能停電時の外灯、充電機能を持たせます

■桜のこみち
敷地に高低差があるので、エリア間を緩やかに結ぶスロープ路を桜並木側に設けます

■風のみち
3エリアをつなぐ軸として風のみちを設けます。
緊急車両も進入可能です向かい合う住棟の間を通り抜けられるので、お互いを自然に見守りあえます

■桜のみち
既存の桜を活かし、さらに沿道に桜を植え、復興のシンボルとなる桜並木道をつくります桜は被災者の心を癒し、地域コミュニティの形成の手助けとなります

■住戸
各エリアに1LDKを分散させ一人暮らしのお年寄りが孤立しないように自然に見守れる環境にします



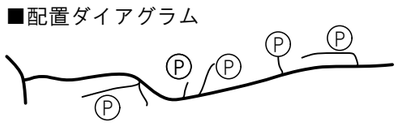
■配置計画

・近隣施設との関係
1Km圏内に立野病院、郵便局、弁当屋もあり、交通手段のないお年寄りにも比較的利便性は高いです。
また立野病院にはゆるっとバスの停留所もあり、大津方面や高森方面への買い物の足も利用できます

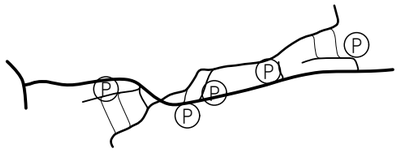
・駐車場
各エリアは1LDK：1台/戸2DK、2LDK、3LDK：2台/戸を確保しています
駐車場に近い位置に1LDKや2DKを配し、高齢者の負担を軽くします

・住戸の組み合わせ
3LDK+2LDK、2DK+2LDK、1LDK+2LDKの3つの組み合わせで、団地内で生活する世代の異なる入居者の自然な交流が図られます。コミュニティ菜園側のデッキはお隣同士が触れ合える憩いの場所となります

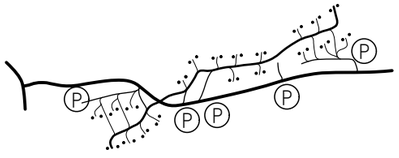
■配置ダイアグラム



①メイン通路と駐車場の設定



②遊歩道と小径の設定



③住戸ユニットの設定

高低差のある敷地形状にあわせた動線計画となるよう車道を設定し、2戸1の住戸が敷地に寄り添う配置計画としました。自然になじむ集落風景を形成します。

南側立面図　S=1/700

全体配置図　S=1:700